

津田出 いづる 蘭學者、官僚。天保三年二月、紀伊國生れ、明治二十八年六月（二百四）（一八三二—一九〇五）。幼名茂一郎、通稱又太郎。號芝山。安政元年江戸で蘭學を學び、歸藩後又武館蘭學教授、のち郷里で私塾を開いた。その後御小姓に拔擢せられ、維新後は和歌山藩大參事となり、藩制改革に當つた。また兵制の改革に努め、砲騎歩工の四寮を設け、軍務司を以て統率せしめるなど、徹兵制實施の始祖とて其名を殘す。廢藩後大藏少輔、陸軍大輔、元老院議員、貴族院議員等歴任。晩年大農論を唱へて千葉の涼野開墾主に従事。陸奥宗光はその高足。

『壺碑—津田出小傳』（津田道大郎編、大正六年十一月—二十五年青木藤作刊）は遺稿を含む。